



審査結果報告書

平成 28 年 2 月 2 日

主 査 氏 名

浅 井 清 

副 査 氏 名

岡本浩嗣 

副 査 氏 名

村雲芳樹 

副 査 氏 名

石村正嗣 

1. 申請者氏名 : DM12019 鍋田 健

2. 論文テーマ :

拡張型心筋症における心臓 MRI 遅延増強像の臨床的意義

3. 論文審査結果 :

本研究は、拡張型心筋症 DCM における心臓 MRI 検査 CMR での遅延増強像 LGE の臨床的意義について検討するため、LGE と心内膜下心筋生検 EBM が心不全などの心イベント発生や左室逆リモデリング LVRR の予測因子になり得るかを検討する研究と、診断時と遠隔期の LGE と T2 強調画像で心筋と他の筋との信号を比較した T2ratio について、LVVEE や心イベント発生に関与するかを検討する研究、の二つの研究から構成されている。

2007 年から 2011 年に入院した DCM 75 例についての検討では、診断時の EMB で得られた線維化スコアと LGE の分布に相関は認められず、診断時の LGE は LVRR や心イベント発生の独立した予測因子であることが明らかにされた。2007 年から 2013 年に入院し 36 ± 24 ヶ月後の遠隔期に CMR を撮像した 68 例では、診断時と遠隔期の LGE 変化が LVRR と関連していることが明らかにされた。さらに持続的な心筋障害が LGE の増悪と関連していることを示唆した。

本研究は症例数、特に心イベントを生じた症例数が少ないこと、LGE はびまん性線維化の評価が困難なことなど限界があるが、新規に DCM と診断された時に非侵襲的に撮像される LGE により将来の LVRR を予測でき、これにより DCM の治療方針を階層化して治療法を選択できる可能性が示唆されたことは臨床的意義が高く、学位論文として価値があり適切であると判断した。